

モデル事業名	笑顔でつなぐ地域の「宝」 継承事業（地域の伝統文化を生かした担い手育成事業）
活動団体名	一般社団法人くまもと教育プロジェクト
ホームページ	http://www.edu-producer.net
所属／担当者名	一般社団法人くまもと教育プロジェクト 代表理事：藤井誠
連絡先	〒860-0844 熊本県熊本市水道町8-1、よねはくビル2階 電話：096-288-5526 ファックス：096-288-5527
活動地域	

● 活動地域の概要

本市を含む人吉球磨地域は、熊本県の国県指定文化財社寺建築の8割が存在し、文化財の宝庫と言われています。また、市内には国指定の7件をはじめ、建造物、史跡、無形文化財等、数多くの文化財が残されています。本市は、昭和30年国調人口4万7千人の県南山間部の拠点都市でした。しかし、その後の基幹産業の農林業が衰退するなど、現在では3万7千人にまで人口が減少しています。さらに少子高齢化により高齢化率は27,9%にのぼり、国・県平均を上回っています。このため、基幹産業である農林業や商工業の後継者不足は深刻で、新たな担い手の確保に苦慮し、多くの分野で活動継続が困難な状況に直面しています。さらに伝統芸能、食文化、伝統工芸など、歴史や伝統文化の息づく地域でありながら、若手層を中心に歴史観が薄まりつつあり、地域の歴史伝統文化を知らない、関心がないという人々が増えており、次世代への継承が危ぶまれてきています。

↓ 熊本県内位置図 人吉市 →



国指定史跡 人吉城



70代の夫婦二人暮らしで（人吉市田野町）

● 活動地域の課題

平成20年6月熊本県内初の国宝「青井阿蘇神社」が誕生し、国宝効果により年間約23万人以上の参拝者を数えています（青井阿蘇神社データ）。また、本年4月25日見込年間乗客数2万人弱のSL復活運行が始まります。人吉市は、これを絶好の機会と捉え、地域活性化の起爆剤として「観光で食べられるまち」を大きな柱として掲げています。しかしここ10年間の観光客数は、年間80万人前後と横ばいで、特に修学旅行は年間1万2千人程度と少なく（人吉市観光統計）、この機会をどのように地域の活性化につなげるのかが大きな課題になっています。特に教育や学習活動につなげた教育旅行の推進は、開拓の余地が充分あります。平成20年度は、こうした課題に着目して、体験型プログラム・教材開発、担い手の育成、組織化に取り組み、そのなかで活動成果を継続して生かすには、自立的事業展開の確立にむけたマーケティング活動の必要性を強く認識しました。これは「新たな公」が抱える共通課題と考えています。

● 活動の内容

（全体）

（1）平成20年度

①適正な地域伝統文化の活用のために（地域資源調査研究）

熊本県立大学との協働で、フィールドワークとワークショップにより、伝統文化についての現状や課題を整理することにより、プログラム・教材化に向けた指標を明確にします。

②ハンズオンプログラム・教材開発

人材育成講座を通じて、地域の伝統文化を生かすためにプログラムを開発します。具体的には、2つのプログラムづくりを行い、教材化することにより、地域の人々を対象とした伝統文化学習をはじめ、社会科見学、教育旅行など、市外から訪れる人々を対象に幅広く活用します。また、プログラム・教材開発は、実証実験に取り組む等、実践的に行います。

〈実証実験〉

担い手の育成（人材育成講座）と連携して、学校教育（1回）、社会教育団体（1回）、本市を訪れる教育旅行またはその他の旅行者の機会（2回）において実証実験を行います。特に教育旅行またはその他の旅行者の機会については、旅行会社関係者の参加、アドバイスをいただきます。

③担い手の育成（人材育成講座）

公募による市民を対象に、担い手育成に取り組みます。講座で単に学ぶだけでなく、講座を通じて参加者のエンパワメントを引き出し、修了後には、そのメンバーでNPOを設立して、活動の担い手として継続した取り組みにつなげていきます。合計5回で構成します。

〈講座内容〉

第1回：フィールドワークとワークショップ（講師：県大教授）

第2回：伝統文化を生かした地域づくり（講師：磯崎泰博）

第3回：プログラムづくりの基本とプログラムづくり①（講師：市内NPO）

第4回：プログラムづくり②（継続）（講師：市内NPO）

第5回：プログラムの演習とまとめ（講師：藤井誠）

④参加者によるNPOの設立

すべての取り組みを継続した取り組みにつなげていくために、参加者によるNPOを設立します。こうした学びから参加、行動へつなげる仕組みづくりは、他のまちづくり関連事業に役立つことと考えています。

（2）平成21年度

①実行委員会の開催

行政、熊本県立大学、民間団体などで構成する委員会を設置します。委員会は年3回開催を行います。委員は7名予定しています。第1回目の委員会では、教育旅行の専門家ゲストとして招き、意見をいただきながら行います。

（第1回）教育旅行の専門家からの意見、事業全体の協議及び、各々の取り組みについての検討、確認を行います。

（第2回）中間会議として、これまでの活動報告、今後の取り組みについての検討、確認を行います。

（第3回）最終会議として、これまでの活動報告、評価、今後の活用について検討を行います。

②東京・大阪におけるマーケティング活動

当事業から4名でチームを編成します。そして熊本県東京事務局、大阪事務所との連携にて、東京は高等学校を対象に5校、大阪は中学校を対象に5校、直接学校にプログラムと教材を持ち込んで、実際にプログラムを提供し、体験していただきます。合わせて、体験者（生徒、教員）からヒヤリングを行い、今後の教育旅行のマーケティング活動に活用します。

③教育旅行用広報ツールの制作

マーケティング活動の成果を生かして、広報用パンフレット（A4版、8ページ）を1,000部制作を行います。制作した広報用パンフレットは、旅行会社及び熊本県東京事務局、大阪事務所などを通じて、学校に配布します。また、専用ホームページを開設します。専用ホームページは国宝青井阿蘇神社だけでなく、人吉球磨地区全体を紹介し、教育旅行の

事前学習などができる内容で構成します。

また、平成 21 年度の成果を生かして、政府緊急雇用対策事業との連携で 7 名の雇用を行い、NPO 九州さがらヒストリアを設立しました。そして、参拝者や観光客を対象に、①歴史衣装、②お宝探見（有料利用者 2,600 名）、③挑戦・人力車の 3 つのプログラムを提供しました。

（直近 1 年間の進捗など）

平成 23 年度は、2 年間の成果を生かして、地元の人たちに継承を行い、地元の人たちによる取組みが行われています。お宝探見は、地元商工会議所が主体の観光案内人協会がガイドプログラムとして実施しています。挑戦・人力車は、人吉商連が緊急雇用対策で 2 名雇用を行い、継続的に取組んでいます。歴史衣装は、再検討とし、平成 22 年秋に開設した隣接する大宮司家開放に伴い、ソフト事業として今後活用していく予定です。

● 活動の成果

・全体

平成 20 年度は、住民参加によるプログラム開発、システム構築、そして NPO の立ち上げ等、幅広い成果をあげることができました。

また、平成 21 年度からは、政府雇用対策事業の活用につながり、7 名の雇用を生み出すことができたのは、大きな地域貢献であったと考えています。東京・大阪におけるマーケティング活動、ツール（パンフレット、ホームページ）を活用した旅行会社、学校に対する売込み等、歴史遺産を活用した観光振興に、新たな視点でのアイデア提供も、地元の人たちに様々な意味でインパクトを与えることができました。今後は、こうした地域資源を活用した取組みをいかに産業として、雇用拡大として生かすことができるか。地域住民の意識改革から始まり、まちづくりのあり方を模索する上での材料としていただければと考えています。

平成 22 年度以降、地元の人たちによって、成果を生かした取組みが継続されていることは、とても心強いと考えています。

・直近 1 年間の成果など

平成 23 年度は、2 年間の成果を生かして、地元の人たちに継承を行い、地元の人たちによる取組みが行われています。お宝探見は、地元商工会議所が主体の観光案内人協会がガイドプログラムとして実施しています。挑戦・人力車は、人吉商連が緊急雇用対策で 2 名雇用を行い、継続的に取組んでいます。歴史衣装は、再検討とし、平成 22 年秋に開設した隣接する大宮司家開放に伴い、ソフト事業として今後活用していく予定です。

● 今後の課題及び展望

・課題

活動の成果が見えて来ると、地域特有の妬み、僻みの壁とぶつかります。単独の取組みであれば、こうした壁はあまり苦労無く乗り越えることができますが、行政等との連携となると、政治的な絡みや行政の立場が顔を出して、なかなか調整が出来ない場合があります。特に、有料化による実践は、行政が絡むことで、行政がお金儲けをしているのはおかしい等の声が上がリ、活動にマネジメント力を導入して行く上での大きな弊害となる。また、今回は国宝神社と言う特別な場所でもあり、有料化の理解は大きく割れた。

しかし、活動成果を生かして、継続した取組みが行われているのは、インキュベータ的な取組みを行う当法人としては、一定の成果を出すことができたと自負している。

・展望

平成 22 年秋に開設した、大宮司家の活用を含めて、歴史資源をいかに観光振興に生かすことができるのか、有料化を含めて、どのように地域の同意を得ながら進めて行くのかが大きなポイントになると思います。

● その他（自由記述）

当法人のように、インキュベータ的な支援による取組みは、ある意味新しい動きを生み出すことができる反面、継承者が見当たらない場合や育成できなかった場合には、成果を成果として見る事が出来なくなる危うさがある。また、外部要因に大きく影響を受けるのも特徴と言えます。